

科目名	コマース研究ゼミナール	科目コード	1212	単位数	2
担当者名	深澤 史樹	開講Semester	第7Semester	開講年次	4年次
授業の方法	演習	到達目標	G,H	実務経験	無
ナンバリング	HSe704	DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

● 授業のねらい

- ・当ゼミでは、卒業論文の作成を前提とした基本的な事柄について学ぶ。
- ・具体的には、論文の構成としては、問う：目的の設定、調べる：先行研究のサーベイ、選ぶ：分析の方法（資料と方法）、確かめる：結果と分析、裏づける：考察、まとめる：結論、校正する：提出前の原稿のチェックの仕方などを学ぶ。

● 到達目標

- ・卒業論文の作成に必要な論文構成、文献・資料・統計など収集および分析できるようになる。
- ・自分の主張や表現したい事柄を的確にプレゼンテーションできるようになる。
- ・卒業論文の執筆が、期限内に提出（タスク管理）できるようになる。

● 授業内容

- 1週目 ガイダンス（ゼミでの約束事項の確認など）
- 2週目 論文の構成を学ぶとともに、本Semester期間での研究計画書を作成する。
- 3週目 卒業論文の構想発表会（1） 1名～2名：目的に照らして、先行研究サーベイの報告をする
- 4週目 卒業論文の構想発表会（1） 1名～2名：目的に照らして、先行研究サーベイの報告をする
- 5週目 卒業論文の構想発表会（1） 1名～2名：目的に照らして、先行研究サーベイの報告をする
- 6週目 卒業論文の構想発表会（2） 1名～2名：目次案を提示しながら、卒業論文の構成を報告する
- 7週目 卒業論文の構想発表会（2） 1名～2名：目次案を提示しながら、卒業論文の構成を報告する
- 8週目 卒業論文の構想発表会（2） 1名～2名：目次案を提示しながら、卒業論文の構成を報告する
- 9週目 卒業論文の構想発表会（3） 1名～2名：主に分析と考察を中心に報告し、検討する
- 10週目 卒業論文の構想発表会（3） 1名～2名：主に分析と考察を中心に報告し、検討する
- 11週目 卒業論文の構想発表会（3） 1名～2名：主に分析と考察を中心に報告し、検討する
- 12週目 卒業論文報告会（4） 1名～2名：卒業論文の内容に沿ってプレゼンテーションを行い、質疑・応答をする
- 13週目 卒業論文報告会（4） 1名～2名：卒業論文の内容に沿ってプレゼンテーションを行い、質疑・応答をする
- 14週目 卒業論文報告会（4） 1名～2名：卒業論文の内容に沿ってプレゼンテーションを行い、質疑・応答をする
- 15週目 卒業論文としての体裁など、最終的なチェックを行う
- 16週目 卒業論文の土台となるレポートの修正、提出。但し、やむを得ず、15週目までのゼミナール内容を実施できなかった場合は、補講授業を行います。

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・広く文章に触れる機会を多く作ること。大量の文章を読むこととできるだけ慣れておくこと。
- ・レポートなど文章を書く機会を多く持つこと。苦手意識の克服が必要。
- ・パソコン（特にキーボード入力）を多用するので慣れておくこと。
- ・文献や資料の収集などゼミの時間だけでは不十分なので、事前にしっかり準備すること（所要時間：120分）。
- ・報告者は、指摘された点の再検討や修正をする。その他の学生は、報告者が指摘された事柄について、反芻し参考にすること（所要時間：60分）。

● 成績評価の方法・基準

- ・ゼミ活動を通じて、司会者、報告者、討論者の役割をきちんと理解し、積極的に参加しているか。とりわけ、報告者としてその義務を果たすことを重要視します。
- ・成績は、プレゼンテーションと卒業論文の土台となるレポートの2つを合わせて（100%）評価します。

● 履修上の留意点

- ・成績評価は、11週以上ゼミナールに出席した学生を対象とする。
- ・ゼミナールは授業ではありません。常に主役は学生であり、やるべきこと（開始時間を守る、レジメ印刷・配布は完了している、活発に議論するなど基本的なゼミ参加への姿勢）がなされなければゼミは時間通りに終了することができず、予定時間を超過することがあります。したがって、ゼミ終了後にアルバイトなどの予定は入れないなど注意をお願いいたします。
- ・ゼミナール以外の時間も多く割かなければ、卒業論文（レポート）は完成しませんので、しっかり取り組んで下さい。

● 課題に対するフィードバックの方法

- ・指導については、ゼミナール以外の時間でも、いつでも可能ですのでご遠慮なくご相談下さい。
- ・履修登録に際しては、事前に担当教員と研究内容について相談し、履修の許可を得て下さい。

● テキスト

毎回、報告者のレジメがテキストとなります。

● 参考書

石黒圭(著),『論文・レポートの基本』（日本実業出版社）,2012年,1,400円+税

● 更新日付

2024/01/31 12:47